

(様式第1号別紙1-1)

介護職員養成研修課程カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

科(科目)名	内 容	実施計画	科目番号
(1)職務の理解 (6時間)	①多様なサービスの理解	国の施策の動向と、介護・介護保険制度の意義を理解し、介護職のあるべきイメージを理解するとともに、科目構成と科目の相互の関連性等、全体像を理解する。介護保険サービスと介護保険外サービスを理解する。	(1)-①
	②介護職の仕事内容や働く現場の理解	多様なサービスと介護職の仕事内容や働く現場を理解するとともに、介護職の資格体系を見直しキャリアパスを学ぶ。ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源の連携を学習する。 《演習》グループワーク (課題：訪問・施設等、それぞれの職場における介護の違いを理解し、グループごとに整理しそれぞれの性質を理解する。)	(1)-②
(2)介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	①人権と尊厳を支える介護	介護職の基本理念である「基本的人権」及び「個人の尊厳」を理解する。QOL、アドボカシー・エンパワメント及び介護におけるICF、ノーマライゼーションの理念等の理解を深める。高齢者虐待防止法を理解し、身体拘束、利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護を知る。個人の権利を守る制度、個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業を学ぶ。 《演習》グループディスカッション (課題：人権と尊厳を守るとはどういうことか、守るためにはどうしたらいいのかをグループ討議の上、発表し理解を深める。)	(2)-①
	②自立に向けた介護	専門職として求められる「自立」と「自律」の理解、自立支援のための介護方法および介護予防の意義と方法を学ぶ。 《演習》グループディスカッション (課題：事例を提示し、望める自立とは何か、そのためにどのような支援が適切か意見を出し合い発表する。)	(2)-②
(3)介護の基本 (6時間)	①介護職の役割、専門性と多職種との連携	介護職に求められる専門性と介護環境の特徴を理解し、利用者主体の支援、根拠ある介護等基本的な知識を学ぶ。異なる専門性を持つ専門職種と、多職種によるチームケアにおける機能と役割を理解する。	(3)-①
	②介護職の職業倫理	法令遵守、利用者の尊厳と自己決定、及び日本介護福祉社会の倫理綱領等から介護の専門職としての社会的責任と姿勢、プライバシーの保護を理解する。 《演習》グループワーク (課題：介護職の専門性を整理し、専門性を理解した上で介護職の倫理観は何かをさぐる。)	(3)-②
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護における安全確保の重要性と、リスクマネジメントを理解する。感染に関する正しい知識、感染予防及び危険予知と事故予防、事故発生時の緊急対応を具体的事例から学ぶ。	(3)-③
	④介護職の安全	介護職の健康管理の重要性を理解し、介護職に起こりやすい健康障害、腰痛、感染症の予防等を学ぶ。	(3)-④

(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	① 介護保険制度	わが国の社会的背景を理解し、介護保険制度の意義、成立と導入後の動向を学ぶ。また、制度の基本的仕組み、制度を支える財源、組織・団体の機能と役割、サービスの種類、利用の流れ、年金制度等を学ぶ。	(4) - ①
	② 医療との連携とリハビリテーション	(1) 医療との連携 服薬、健康チェック、ストーマ、経管栄養等の高齢者医療及び医療行為と介護、訪問看護等、看護と介護の役割・連携を理解する。 (2) リハビリテーション リハビリテーションの理念、意義、種類、経過等を理解する。 《演習》グループワーク (課題：医療・リハビリテーション現場の事例や時事問題)	(4) - ②
	③ 障害者福祉制度およびその他制度	障害者福祉の背景と動向を学び、障害者自立支援制度の仕組み・理念・概要と目的を理解する。また、成年後見制度、個人情報保護法、日常生活自立支援事業等個人の権利を守る制度の概要や目的も学ぶ。	(4) - ③
(5) 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	① 介護におけるコミュニケーション	コミュニケーションの意義と目的、利用者・家族への対応、状況・状態に応じた手法と、コミュニケーションの技法・道具を用いた言語的コミュニケーションを学ぶ。 《演習》ロールプレイ (二人一組になり、言語・非言語コミュニケーションを体験する。)	(5) - ①
	② 介護におけるチームのコミュニケーション	コミュニケーションを促す環境について学ぶとともに、チームにおける報告・連絡・相談、記録による情報の共有化を理解する。 《演習》グループワーク (課題：報告、記録の書き方等)	(5) - ②
(6) 老化の理解 (6時間)	① 老化に伴うこころとからだの変化と日常	老年期の発達と心身の変化の特徴と心身機能の変化と日常生活への影響を理解する。	(6) - ①
	② 高齢者と健康	老年症候群と生活上の留意点、及び高齢者に多い病気と生活上の留意点を学ぶ。 《演習》グループワーク (課題：高齢者の疾病の具体的事例を提示し、生活上の留意点や介護上の留意点等を整理する。)	(6) - ②
(7) 認知症の理解 (6時間)	① 認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念を理解し、パーソンセンタードケア・認知症ケアの視点を学ぶ。	(7) - ①
	② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	認知症の概念と原因疾患・病態を理解し、認知症の人に生じやすい身体的不調と健康管理を学ぶ。	(7) - ②
	③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	認知症の人に起こりやすい生活障害、心理・行動の特徴を理解し、利用者への対応を学ぶ。	(7) - ③
	④ 家族への支援	認知症の受容過程の援助と、介護負担の軽減を理解し、家族との関わり方を学ぶ。 《演習》グループワーク (課題：事例を基に、認知症家族の負担を知り、具体的な関わり支援の方法を提案し検討する。)	(7) - ④

(8) 障害の理解 (3時間)	① 障害の基礎的理解	障害者福祉の基本理念、国際生活機能分類を理解し、正しい障害の認識や知識を修得する。	(8) - ①
	② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	身体障害・知的障害・発達障害・内部障害等の障害をそれぞれ心理や行動の特徴から学び、障害と障害者を理解し支援方法を学ぶ。	(8) - ②
	③ 家族の心理、かかわり支援の理解	障害者や高齢者を介護する家族の肉体的・精神的負担を理解し、家族への関わり支援を学ぶ。 《演習》グループワーク (課題:事例を基に、障害者(児)家族の負担を知り、具体的な関わり支援方法を提案し検討する。)	(8) - ③
(9) 心とからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	【ア 基本知識の学習 (10~13 時間)】		
	① 介護の基本的な考え方	理論に基づいた介護 (ICFに基づいた生活支援)、法的根拠に基づいた介護を理解する。	(9) - ①
	② 介護に関する心とからだのしくみの基礎的理解	学習の諸理論、記憶のメカニズム、感情と感情に類似する概念、思考と認知の概念、体力と意欲の関係等、自己概念と生きがいを理解する。	(9) - ②
	③ 介護に関する心とからだのしくみの基礎的理解	健康チェック・バイタルサインのとり方、また、骨・関節・筋肉、自律神経と内部器官に関する基礎を理解する。	(9) - ③
	【イ 生活支援技術の講義・演習 (50~55 時間)】		
	④ 生活と家事	生活の捉え方、衣食住の環境整備等、生活と家事について理解する。	(9) - ④
	⑤ 快適な居住環境整備と介護	「人と住まい」を理解し、高齢者・障害者にとっての住まいの性能について学び、介護保険による住宅改修及び福祉用具を学ぶ。 《演習》グループワーク (課題:高齢者・障害者とバリアフリーを理解し、グループごとに「理想的な住まい」を提案、発表する。)	(9) - ⑤
	⑥ 整容に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	整容の生理学的・社会的・精神的意義を理解し、具体的な整容行動と支援方法を学ぶ。 《演習》実技 (衣服の着脱・整髪等身だしなみ)	(9) - ⑥
⑦ 移動・移乗に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	移動・移乗介助の意義と目的、福祉器具と利用方法、残存機能の活用と自立支援、体位変換の方法、利用者と介護者の安全・安楽な介助方法、また視覚障害者の歩行介助を学ぶ。 《演習》介護技術 (車イス・杖等を用いた移動・移乗・歩行) 視覚障害者の歩行介助、体位変換	(9) - ⑦	

	⑧食事に関連した こころとからだ のしくみと自立 に向けた介護	食事の意味・摂取の仕組みと加齢や障害に伴う様々な症状、用具・ 自助具の活用法、口腔ケアを理解し、楽しい食事の支援方法を学ぶ。 《演習》実技（食事の介助、口腔ケア、福祉用具の使い方）	(9)－⑧
	⑨入浴、清潔保持 に関連した こころと からだの しくみと自立 に向けた介護	入浴と清潔保持（全身浴・部分浴）に関する基礎知識を学び、安心・ 安全な入浴介護・清拭介護を学ぶ。 《演習》実技（全身浴と部分浴、清拭、ケリーパッド洗髪）	(9)－⑨
	⑩排泄に関連した こころとからだ のしくみと自立 に向けた介護	排泄の意義・メカニズム・排泄障害・失禁を理解し、排泄環境の整 備・用具の活用方法と支援方法を学ぶ。 《演習》実技（ポータブルトイレ・差し込み便器・尿器・オムツ等 を用いた排泄、及びベッド上の排泄の介助）	(9)－⑩
	⑪睡眠に関連した こころとからだ のしくみと自立 に向けた介護	睡眠に関する基礎的知識を理解し、ベッドメイキングと環境整備、 用具活用等による質の高い睡眠の支援方法を学ぶ。 《演習》実技 （課題：ベッドメイキング、安眠介助のための環境・姿勢の提案・ 実践・検討）	(9)－⑪
	⑫死にゆく人に関 連したこころと からだのしくみ と終末期介護	終末期の身体的状況・心理状態を理解し、緩和ケアと多職種との連 携、家族への支援方法を学ぶ。 《演習》グループディスカッション （課題：終末期をテーマに、緩和ケアの具体的方法と家族への支援 方法について話し合い、発表する。）	(9)－⑫
【ウ 生活支援技術演習（10～12時間）】			
	⑬介護過程の 基礎的理解	科学的思考と介護過程を理解し、介護過程の展開に必要な構成要素 を理解する。 《演習》個別援助計画書の作成	(9)－⑬
	⑭総合生活支援 技術演習	複数の事例において、一連の支援を学ぶ。支援の際の視点、アセス メント、自立に向けた介護課程の展開方法を理解する。（事例別支 援方法・総復習・事例を提示し、演習を行うことにより習得状況を 確認する。）	(9)－⑭
(10)振り返り (4時間)	①振り返り	研修全体を振り返り、学習したことと継続的に学習すべき事柄の確 認。 《演習》グループディスカッション （課題：介護の専門職の目指すべき姿、自分はどうあるべきか等、 意見を出し合い発表し、介護職の理想の全体像をイメージする。）	(10)－①
	②就業への備えと 研修修了後 における継続 的な研修	施設・事業所等現場における継続的学習等についての確認。キャリ アパスやOJT等の理解を深める。	(10)－②

※1 実施計画欄に、申請者が実施する研修内容を記載すること。

※2 実習を実施するにあたっては、本要綱「14 実習」の内容に留意すること。